



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2013.10

No.354

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



## 1. マイ・フィールドの紹介

北本市西部の荒川河川敷と大宮台地がメインフィールドです(地図参照)。ここは河川敷の田圃とアシ原、河川敷と台地の境の斜面林、台地を侵食した谷津や雑木林、畑などが混在する環境です。

河川敷の駐車場まで車で行き、スコープを担いで約5km 歩き、午前中一杯かかります。家から歩く場合は10km と良い運動になるので双眼鏡のみ持っています。

## 2. コースの紹介

まずは高尾さくら公園[A]を目指します。場所は北本駅西口から西に2.5kmほどの荒川沿いにあります。公園北側の阿弥陀堂の更に北には大宮台地で唯一のカタクリ自生地[B]があります。ニリンソウ、カテンソウなども咲いており、春先は多くの人で賑わいます。

但し周囲の民有地はゴミ捨て場になっており、単純には楽しめず人間と自然環境について考えさせる場所でもあります。草花は程々にして、周囲の木々を見渡せばカラ類などが飛び回っています。時にはその枝にキジが止まっていることもありました。

高尾さくら公園に戻りましょう。ここでは良い思い出があります。野鳥を見始めたころ、桜が終わった時季に突然青い鳥が飛んで来て木に止まりました。「ん、なんだ?」。まだ青い鳥はルリビタキしか見たことはありませんでしたが、これは時期が違います。「もしかしてオオルリ?」。興奮を抑えて図鑑を引っ張り



ニリンソウ(相原修一)

出し確認、間違いありません。先輩方にスコープに導入して頂き、説明を聞きながら増える1種類も嬉しいことですが、自分で見つけて同定できた時の喜びは最高です。

ある日散歩中に下の池で水蓮を見ていたら、オオタカがヒヨドリくらいの鳥をぶら下げて数メートル脇を飛んでいき、すぐ傍の木に止まったことがありました。猛禽の狩はいつでも迫力がありますが、残念ながら双眼鏡も無く悔しい思いをしました。散歩でも双眼鏡は必須ですね。

公園の隣は自然ふれあいの池[C]です。ホタルを育てていますが周辺の湿地にはトンボも多いですよ。ここから湿地のタシギや林の鳥を観察しながら南に向かうと昨年5月にオープンした北本水辺プラザ公園[D]です。

以前は広大なアシ原で私のベニマシコ観察ポイントだったのですが、すっかり開けて小鳥は少なくなっていました。但し見晴らしが良くなったので鳥の姿ははっきりと見えるようになりました。悩ましいところですね。

おかげで今年の夏はセッカがととてもよく観察できました。またウグイスやオオヨシキリも多く、姿も見やすい場所です。その為か大地の斜面林の樹上ではカッコウやホトトギスが止まって鳴いています。

ここから暫くは河川敷の田圃地帯[E]です。所々にある灌木では1年中小鳥が観察できます。しかし、渡りの時季でもシギやチドリ類は少ないです。少し前にチュウシャクシギがいたくらいかな。キジやコジュケイも良く鳴いており時々姿を見せます。

そう云えばここでキジの雌の鳴き声を聴きました。キジっぽいけど何か優しい鳴き声が聴こえたので辺りを見回すと休耕田の畦道にメスが立って鳴いています。暫く見ていると草むらから雛が出てきて畔の手前で立ち止まり左右を確認し渡って行きました。これが4羽続き、全員が無事にわたり終えると母親も去って行きました。まるで小学生の横断風景



今回は“鳥の鳴き方の珍百景”です！  
大森桃子(さいたま市)

私が住んでいる地域では毎日午後5時に、季節に合わせた歌のメロディーが放送されます。8月までは『海』(海は広いな 大きいな)でした。私はいつも、メロディーに合わせて歌いながら、夕食の準備を始めるのですが、その日歌っていたのは、私だけではありませんでした。

近所でハシブトガラスが、のんびりした三拍子に合わせて「カアカアカア、カアカアカア、カアカアカア、カア〜」。放送が終わると、鳴くのを止めてしまいました。

「そんなの、偶然だよ」と言われたら、返す言葉はないのですが、実は数年前にも、これに似たようなことがあったのです。

神奈川県在住の鳥友に相模川周辺を案内してもらった時のこと。早春で、シジュウカラがあちこちでさえずっていました。中に「ツピツピツピ」と、まるでヒガラのように早口の1羽が。すぐそばにJR相模線の踏切があり、ちょうど警報機が鳴っていました。早口の「ツピツピツピ」は「カンカンカン」と鳴りつづける警報機の音にぴったりシンクロしていたのです！ 警報機が鳴りやむと、このシジュウカラのさえずりは、「ツーピー、ツーピー」という、よく耳にするのんびりバージョンに変わりました。

鳥たちにとって、音声は重要な情報ですよ。すぐ近くで気になる音がすると、それに対抗したり、釣り込まれて一緒に鳴いたりすることがあっても、案外、不思議ではないのかもしれない。

とすると、私が聴いた“シンクロナイズド・シンギング”は、けして“珍”ではないのかなあ？ 鳥たちが、いつ、どんな鳴き方をするのか、これからも気をつけて耳を傾けていたいと思います。

それにしても、あのシジュウカラ、本数が少ない相模線でよかった。もし「開かずの踏切」だったら、と思うと、はあ〜、想像しただけで息切れが…

補足『岩槻文化公園周辺の昆虫』  
藤原寛治(さいたま市)

7月号の特集で文化公園のセミは、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシの5種類と書きましたが、これにクマゼミが加わり6種類となりました。

先週の土曜日(8月10日)に、文化公園内でクマゼミが鳴いているのを確認できました。公園入口の駐車場のクスノキや他の木を移動しながら鳴いていましたが、そばに行くと凄まじい迫力です。ワクワクしてきます。

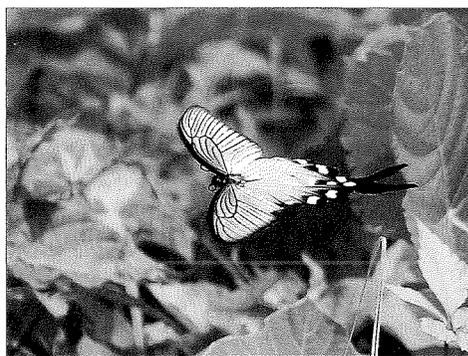
姿を見ようと探したのですが、これが、見つけられません。飛んでいる姿を一度見ただけでした。

Kさんに連絡したところ、昨年も同じ場所で鳴いていて、2頭見たとのこと。数年前からいるという話もあり、私も一度だけクマゼミらしき声を聞いたことがありました。これで、定着と言ってもいいんでしょうかね。

翌日の日曜日には、確認できませんでした。Kさんが月曜日に行き、場所は駐車場ではなかったようですが、声を確認したそうです。

そして、本日(17日)も行ってみました。今日の夜は花火なので、その準備やら屋台の準備やらでごったがえしており、ゆっくり探すことはできなかったの、確認はできませんでした。

代わりにではないですが、河川敷で優雅に滑空するジャコウアゲハを撮影できました。





## 野鳥情報

**東秩父村林道笠山線** ◇7月5日、ホトトギス、カケス、ホオジロ。林道の脇にオカトラノオ、ムラサキシキブ、タマアジサイが咲いていた。7月16日、アオゲラ、カケス、ホトトギス、ホオジロ。渡り蝶のアサギマダラが、時々羽ばたかずに滑空してきてきれいだった（秋元久雄）。

**東秩父村経塚** ◇7月5日、オオタカ、カケス、キセキレイ。アジサイの道でウグイス数羽の囀りが奇妙、「ホーギョケギョケ」です。7月16日、ウグイス1羽が「ホーホケキョホイ」と囀っていた（秋元久雄）。

**東秩父村皆谷** ◇7月5日、イワツバメ（秋元久雄）。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇7月10日、4羽で行動を共にしていた、ハシブトガラスの幼鳥が声変わりして成鳥の声に近くなってきた。近頃、ひところの騒がしさが無くなった。西沼でコアジサシがダイビング。小魚をくわえて西方に飛び去った。まだ子育てをしているようだ。その他、カワセミ、コアジサシ、アオサギ、カワラヒワ、メジロなど。7月17日、コジュケイが久しぶりに大きな声で鳴いた。ハシブトガラスの幼鳥15羽が騒がしく鳴きながら、集団でキュウリ畑の黄色くなったキュウリを漁っていた。ムクドリの大群70羽士が刈ったばかりの芝生で採餌していた。その他、コアジサシ、カワセミ、カワラヒワ、シジュウカラ、ツミ。7月21日、風切羽の抜けたオオタカがカラスに追われて屋敷林に逃げ込んだ。休耕畑を耕した後に、ハクセキレイの親子がきて、採餌していた。コアジサシの姿が見られなくなった。子育てが終わったのだろう。その他、コジュケイ、カワセミ、カワラヒワ。8月8日、一週間位前から毎朝コジュケイが鳴くようになった。8月14日 カワセミが何度も飛び込んで採餌を試みていた。8月19日、嘴が厚く、スズメよりも少し大きな黒っぽい鳥が電線にとまっていた。尾羽の先は擦り切れてか乱れている。カワ

ラヒワの様だ（長嶋宏之）。

**白岡市新井新田 N36.0329 E139.6342** ◇7月14日、コアジサシ50羽士、コチドリ2羽、ヒバリ多数（長嶋宏之）。

**さいたま市岩槻区岩槻城址公園** ◇7月22日 午前11時頃、コムクドリ♂1羽、♀1羽。ムクドリの大群(100羽位)の中に、少し小さい個体がいるようだったので、暫く観察を続けていると近くの電線に止まってくれた。やはり、コムクドリが混っていた（菊川和男）。

**蓮田市上** ◇7月23日、ツミの幼鳥が5羽巣立った（長嶋宏之）。

**滑川町武蔵丘陵森林公園山田大沼** ◇7月25日、ハシビロガモ♀1羽。その他、アオサギ、カルガモ、カイツブリ、ガビチョウ、カワウ多数（長嶋宏之）。

**越谷市大成町6丁目** ◇7月25日、ヨシゴイ成鳥♀1羽、雛3羽。成鳥早は、見ている前で小魚3匹、川エビ2匹、小さめのザリガニ1匹を捕らえ、すぐに雛に運ぶ（山部直喜）。

**越谷市大道** ◇7月25日、セイタカシギ2羽。2羽とも両足に足環をしていた。1羽の足環は上部2/3が赤、下部1/3は水色に見えた。もう1羽は上から水色・赤・黄に見えた（山部直喜）。

**さいたま市見沼区南中丸** ◇7月25日、コムクドリ♂3羽、♀5羽、電線に並んでとまり、羽繕い（小林みどり）。

**さいたま市見沼区蓮沼** ◇7月25日、コジュケイ1羽、民家の庭木にとまって「チョットコイ、チョットコイ」と繰り返して鳴く。けづめがあるので♂。7月26日、ハシブトガラス親子連れ（成鳥1羽、幼鳥2羽）、木の枝に並んでとまる。幼鳥1羽は、もう1羽の幼鳥の頭部を軽くつつく。こんな小さいうちから、相互羽繕いをするの？（小林みどり）。

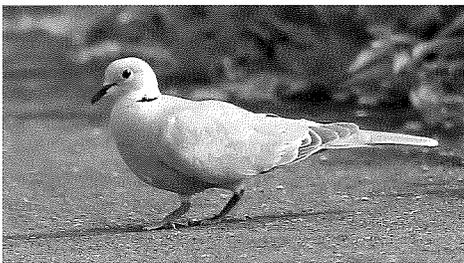
**さいたま市見沼区南中野** ◇7月25日、日本大学構内の池の縁に、コサギ2羽。7月31日、シジュウカラ幼鳥1羽、住宅地内の電線にとまり、成鳥と同じように「チーチー、ジュクジュク」と鳴く（小林みどり）。

**さいたま市岩槻区長宮** ◇8月1日、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ。コチドリノ若鳥1羽。コアジサシ、飛べそうな幼鳥3羽、まだまだヒヨコ状態3羽。1羽の成鳥が、脚を後方に蹴り上げるようにして地面を掘る。まさか、今から巣造り!? 8月14日、営巣地にコアジサシの姿がない。今年の繁殖シーズンが終わったようだ。トータルで15羽前後が巣立ったものと考えられる(小林みどり)。

**さいたま市北区見沼** ◇8月2日、ツバメ10羽十、畑に降りて休息。幼鳥が多いが成鳥もいる。時折、短い脚でチョコチョコ歩き、何かをついばむ。ハクセキレイ成鳥♀1羽、畑で幼鳥1羽に給餌。ホオジロがさえずる。この時季にさえずっているのは、ホオジロだけ。スズメの幼鳥2羽、1匹のアオバハゴロモを追いかけますが、逃げ切られる。修業はきびしい…(小林みどり)。

**さいたま市北区芝川(県道2号線~鷲山橋)**  
◇8月2日、カルガモ8羽、カイツブリの声。8月13日、カイツブリ夏羽1羽。初列風切が抜けたカルガモ1羽が泳いでいる。アオサギ1羽、小さな中州で日光浴。翼を腰のあたりでスカートのように広げる独特なポーズ。鷲山橋上流側のアシ原の中から「ギュルッ、ギリッ」という声が聞こえる。オオヨシキリの幼鳥か(小林みどり)。

**川島町町役場付近** ◇8月11日、水田地帯でシラコバト1羽=下写真=。私は20年以上川越市に住んでいますが、近所でシラコバトを見たのは、10年ほど前の冬に川越市内で1羽見て以来です(岡部 悟)。



**行田市中江袋** ◇8月4日、ショウドウツバメ300羽十。昨年、シギ・チドリ類を楽しんだ休耕田、残念ながら、今年はどこも水が

入っていない(小林みどり)。

**春日部市倉常** ◇8月6日、ゴイサギ若鳥1羽、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギと、サギ類6種類が大集合。乾いた休耕田にムナグロ6羽(夏羽1羽、冬羽へ換羽中2羽、冬羽3羽)が休息(小林みどり)。

**越谷市大吉** ◇8月11日午後5時、アメリカウズラシギ1羽を確認。鳥友4人と慎重に同定。この地でアメリカウズラシギを見るのは初めて。8月14日午後5時、ジシギ類1羽確認(タシギではないのは確実)。姿をスコープで明瞭に捉えることが出来たが同定出来ず残念(植平 徹)。

**さいたま市見沼区加田屋** ◇8月14日、川にダイサギ1羽、嘴が黄色い。カイツブリ1羽、ザリガニのようなものをくわえて浮上。アオサギ1羽、農耕地の低木にとまっている。セグロセキレイ1羽、荒地の水たまりの周囲を歩き回る。ムクドリ40羽十、1本のエノキに集まり、その周辺の畑や荒地、舗道に降りて採食。スズメ10羽十、エノキの実を採食(小林みどり)。

**さいたま市緑区見沼自然公園** ◇8月14日、午前10時30分頃、公園奥の立入禁止の湿地から「キョッ」「コッ」と聞こえる、やや甲高い声。ひと声ひと声区切りながら、断続的に鳴く。これに「キョキョキョキョ」と続けば、完全にヒクイナなんだけど…(小林みどり)。

**川越市南古谷田園** ◇8月17日、ムナグロ44羽とコチドリ数羽、チョウゲンボウが蹴散らす。その他コアオアシシギ、タカブシギ各1羽。同月18日、わずかな面積の休耕田2ヶ所にムナグロ計130羽とコチドリ数羽。その中にヒバリシギ、タカブシギ各1羽(石塚敬二郎)。

#### 表紙の写真

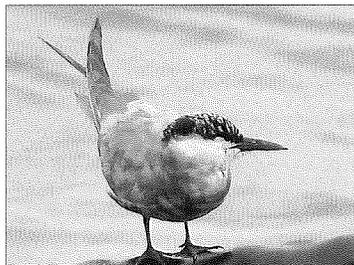
#### スズメ目ヒタキ科ノビタキ属ノビタキ

「そこオレのとまり場所！」 直前まで、竹ざおの先にはアカトンボがとまっていた。

佐久間孝夫(さいたま市)



## 行事案内



クロハラアジサシ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費**：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻**：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：異常気象の夏が過ぎ、秋本番。鳥たちの渡りは平年並み？ ショウドウツバメ、アマツバメそしてコサメビタキを期待。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：須崎、赤堀、伊藤、大井、倉林、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：見沼は渡りのシーズンをむかえます。ノビタキのような渡りのために立ち寄る鳥だけでなく、越冬の為に来る猛禽類等も観察できます。芝川第一調節池周辺をゆっくり歩きたいと思います。

ご注意：途中にトイレはありません。天候によってはコースを変更します。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月13日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井(巖)、鶴飼、倉崎、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：暑かった夏もようやく過ぎ去り、秋の風が心地よい季節となりました。ノビタキやエゾビタキはもう来ているかな？ 野鳥の森まで歩きます。10月とはいえ、帽子や飲料水をお忘れなく。

### 加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月19日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:35→南栗橋で乗り換え→栗橋 7:57→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着、東武日光線 7:57 発に乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、中里、野口(修)、茂木、山田

見どころ：谷中湖に吹く風も爽やかになる季節です。渡りの鳥たちや気の早い冬鳥をじっくり探しましょう。昨年はクロハラアジサシやツツドリなど43種が見られました。

## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月19日（土）午後3時～4時ころ  
会場：会事務局108号室

## さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、小林（み）、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：例年なら冬鳥到来の季節ですが、今年は異常気象です。どんな鳥と出会えるでしょうか。初心者の方、ベテランの方、いっしょに鳥を探しましょう。

## 川越市・西川越探鳥会

期日：10月20日（日）

集合：午前9時15分、JR川越線西川越駅前。  
交通：JR川越線大宮8:36→川越で9:06 高麗川行きに乗り継ぎ→西川越9:09着。

担当：佐久間、中村（祐）、長谷部、山口、山本

見どころ：酷暑の夏も過ぎ、秋から冬へ向かって鳥たちも移動の時季です。モズ、タカ、カワセミ、北国からはジョウビタキ、カモなどを期待します。

## 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）～27日（日）

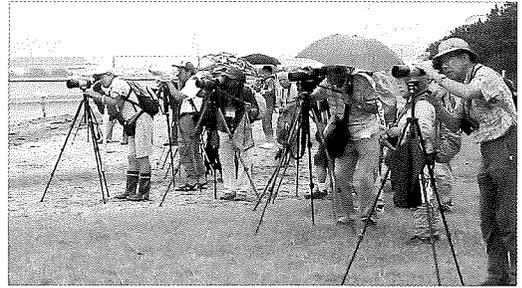
詳細は9月号をご覧ください。

## 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月27日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス8:47発、行田折返し場（佐間経由）行きで「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR行田駅東口から、行田市内循環バス・観



8月25日ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

光拠点コース左回り9:05発にて「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原（修）、相原（友）、大坂、岡安、竹山、立岩、内藤、野口（由）、村上、茂木  
見どころ：実りの秋になりました。古墳を背景に赤く色づいた柿に群れる鳥たちは絵になります。ジョウビタキはもう来ているでしょうか。

## 宮城県・蕪栗沼伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：11月23日（土・祝）～24日（日）

集合：23日午前7時、JR大宮駅西口ソニック前広場（鐘塚公園）。

交通：往復貸切バス（中型）を使用。

解散：東武野田線岩槻駅にて24日午後6時ころの予定。

費用：25,000円（1泊3食宿泊料・懇親会費・入湯料、貸切バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：20名（埼玉会員限定、先着順）、最少催行人数16名。

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、日本野鳥の会会員番号を明記して、長野誠治

10月1日消

印以降から有効とします。

担当：長野、青木、入山、田邊、浅見

見どころ：数万羽のガンのねぐら入り・ねぐら立ちは、初めての方はもちろん、何回見ても感動もの。マガンやヒシクイ、そしてベニマシコなどの小鳥類も観察します。

宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意はできません。宿には温泉（大浴場）が隣接しています。ゆっくり疲れを癒しましょう。



## 行事報告

3月30日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：28名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ キジ コチドリ セグロカモメ ウミネコ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) (番外：ドバト) 真冬のような寒さとなった中、久しぶりのシラコバト出現でスタート。遊水地は谷中湖の干し上げ、調整池のヨシ焼きと、様子が一変していたが、ベニマシコ、シメ、オオジュリンなどの冬鳥が変わらず良く姿を見せてくれた。また、湖面を飛び交う多数のツバメや、キジ (♂) の縄張り争いなども見られ、季節を感じさせてくれた。(佐野和宏)

3月30日(土) 行田市 さきたま古墳公園

参加：26名 天気：曇

カワウ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ キジバト アリスイ アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 小雨混じりの曇天。花見客が少なく安全面ではひと安心。開始時にシロハラが現れる。暫く進むと遠くの樹の中に猛禽が。枝被りで同定が難しく皆で楽しみながら観察しハイタカとした。少し歩くとカケスがオオタカの鳴きまねをし、姿も見せた。次は本物のオオタカの声がし、カラスに追われ上空を旋回したあと元の場所に戻った。先ほどのハイタカを逆方向から探すが不在。アオゲラが鳴き樹上に止まる。水鳥の観察場所だった二子山古墳の濠は

埋め立てられ殆ど水がない。混雑する公園内を避け旧忍川にでるとアリスイが現れる。冬鳥たちに別れを告げ探鳥会を終わる。(相原修一)

4月7日(日) 北本市 石戸宿

参加：28名 天気：快晴

アオサギ カルガモ コガモ オオタカ サシバ コジュケイ キジ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ) 芽吹き始めの淡い黄緑色の木々と雨上がりの爽やかな探鳥会。スタート直後に入口の橋のところで、アオゲラの大きな鳴き声。ユリノキに姿を見つけ望遠鏡で観察。コースの途中は、ウグイス、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラの囀りがあっちこちで繰り返された。河川敷ではオオタカ、サシバを見る事が出来た。今年は桜が早く既に散ってしまった蒲桜の東光寺まで遠征。途中数輪咲き残るカタクリの花も望遠鏡で観察。出発前に学習センターの方から声が聞こえたツミは探鳥会では出現しなかった。(吉原俊雄)

4月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：44名 天気：晴

カワウ カルガモ チョウゲンボウ キジ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ドバト) 前日の大荒れの模様から、中止の可能性があったが、回復して晴れ。しかしかなり強い風が吹き荒れ、鳥見には不向きな天候だった。期待していた春の花々も、すでにほぼ咲き終えてしまっていて、とても残念な結果となってしまった。

(伊藤芳晴)

4月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：47名 天気：晴

カワウ カルガモ トビ オオタカ ハイタカ コジュケイ キジ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ

ビンズイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス  
 エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ  
 アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ  
 ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガ  
 ラス (33種) 土手の桜がすっかり葉桜になっている  
 中、まだツグミ、シメ、クヌギの花を食べている  
 マヒワが居てくれた。ウグイス、シジュウカラ、  
 メジロがさえずり、ヒガラもまだ居た。カケス、  
 ヒヨドリは北に移動するのか活発に動き回っていた。  
 ツバメが飛び回り、ヒバリがにぎやかにさえず  
 っていた。冬鳥が去り夏鳥はこれからという時  
 季なので鳥が少なかったが、オオタカが木に止ま  
 っているところに、ハシブトガラスが接近、飛び  
 立つところが見られ盛り上がった。(千島康幸)

4月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
 ボランティア: 8名

石塚敬二郎、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、  
 大坂幸男、柴野耕一郎、藤掛保司、増尾隆

4月21日(日) 春日部市 内牧公園  
 雨のため中止。(石川敏男)

4月28日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園  
 参加: 76名 天気: 晴

カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ  
 コガモ ノスリ チョウゲンボウ キジ キジバ  
 ト ヒメアマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ  
 ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウグイス  
 オオヨシキリ セッカ キビタキ エナガ シジ  
 ユウカラ ホオジロ アオジ クロジ カワラヒ  
 ワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
 ハシブトガラス (36種) (番外: ガビチョウ) 集合  
 地を出発。鴨川排水機場へ。カワウ、カモ3種、  
 サギ2種、ダイサギの目先の青が久しぶり。南へ  
 戻り、中土手橋を渡り、土手を越えて水田へ。中  
 央あたりでオオヨシキリ。水田を回って公園へ。  
 トイレ休憩中サンショウクイの声。ここの探鳥会  
 では初めてだ。複数いるよう。全員大騒ぎ。30分  
 ほど見ていたと思う。その後、森の中をゆっくり  
 と解散地へ。(倉林宗太郎)

4月29日(月、休) 東松山市 物見山  
 参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ カルガモ トビ ノスリ コジユケ  
 イ キジバト アオゲラ コゲラ ビンズイ サ  
 ンショウクイ ヒヨドリ コマドリ ウグイス  
 キビタキ オオルリ エナガ ヤマガラ シジュ  
 ウカラ メジロ ホオジロ アオジ イカル シ  
 メ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブト  
 ガラス (27種) (番外: ガビチョウ) すっかり新緑  
 に装いを変えた石坂の森を歩いた。出発してすぐ  
 にオオルリの声が聞こえてきた。しばらく待つて  
 いると近くの枝に飛んで来てくれた。その直後  
 にはキビタキの声と姿。キビタキはその後も所々で  
 さえずりが聞こえた。ビンズイ、シメ、ヤマガラ、  
 シジュウカラ、メジロ、コゲラなど次々に姿を確  
 認。オトコヨウゾメ、マルバアオダモなどの花を  
 見ながら進むと田んぼの方からシュレーゲルアオ  
 ガエルの合唱。うしろのグループはコマドリの声  
 も聞いた。地球観測センターで小休止のあと帰路  
 は東松山市民の森を歩き、物見山公園に上がって  
 森林浴ハイキングの探鳥会を締めくくった。鳥合  
 わせの終了間際にサンショウクイが上空を通過し  
 て行った。(中村豊己)

4月29日(月、休) シギ・チドリ類調査  
 ボランティア: 18名

相原修一、浅見徹、石井智、石黒和子、石塚敬二  
 郎、海老原教子、海老原美夫、大川清久、大坂幸  
 男、大塚純子、岡部清美、久保田忠資、佐久間博  
 文、新部泰治、野口修、馬場友里恵、藤田敏恵、  
 村上政直 ◇ さいたま市の大久保農耕地で行われ  
 た。調査結果は別途報告。(石井 智)

5月3日(金、休) 幸手市 宇和田公園  
 参加: 33名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
 コガモ サシバ チョウゲンボウ キジ コチド  
 リ ムナグロ イソシギ シラコバト キジバト  
 コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロ  
 セキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス  
 オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ  
 カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ  
 ソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ドバ  
 ト) 風もなく穏やかな鳥見日和となった。橋の上  
 からセグロセキレイの親子の給餌を観察。何とも  
 ほほえましい。水路の土手の上に出るとシラコバ  
 トが電柱の上に止まって鳴いていた。ゆったりと

したテンポの鳴き声がこちよい。全員が間近で見ることができた。江戸川のアシ原ではオオヨシキリのさえずりを聞く。田んぼに出ると田植えの真っ盛りの中、ムナグロの群れがくつろいでいた。

(中里裕一)

5月4日(土、休) 栃木県 県民の森

参加：28名 天気：快晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ ノスリ キジバト アオバト ツツドリ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ クロツグミ ヤブサメ ウグイス センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 県民の森駐車場に着くなり、オオルリの囀りが気持ちよく聞こえる。その姿は、スポットライトを浴びて歌っている歌手のように綺麗だ。オオルリのステージに満足してから宮川溪谷に移動した。サンショウクイのペアやキビタキの姿をじっくり見る事ができた。また、ミソサザイも枯れた木の天辺で誇らしげに囀ってくれた。育樹祭記念跡地で昼食を食べてから駐車場へ戻った。沢のある谷間にサンショウクイの特徴ある声が木霊していた。

(入山 博)

5月6日(月、休) 蓮田市 黒浜沼

参加：43名 天気：晴

カイツブリ カワウ アマサギ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ バン オオバン コチドリ ムナグロ イソシギ チュウシャクシギ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト) 幸先良く出発地点の電線にコムクドリ夫妻が現れた。元荒川岸で到着が遅れていたオオヨシキリが我々を歓迎してくれ、水面をイソシギ、コアジサシが飛んだ。田んぼに向かうとチュウシャクシギ1羽が畦に立っていた。下見では全く見られなかった期待のムナグロ約30羽が見つかった時にはホッとした。加えてここでは久しぶり

のアマサギがそばに飛んできて盛り上がった。サギを見ながら歩くとオオタカが上空を飛び、振り返るとムナグロはいなくなっていた。好天気に加えて37種の出現鳥で満足の探鳥会。(玉井正晴)

5月6日(月、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：46名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ コガモ ヒドリガモ メダイチドリ オオメダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ チュウシャクシギ セイタカシギ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：ドバト) 新しく完成した歩道橋を渡って干潟へ。いきなりシギ・チドリの佃煮状態。識別の話が盛り上がる。オオメダイチドリを全員で見た。終了後にハヤブサが出現してシギ・チドリがほとんど行ってしまった。

(杉本秀樹)

5月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：35名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ガビチョウ) 真夏のような中、スタートした。土手に出るとキジが出てきた。歌舞伎役者のような衣装を披露してくれた。相変わらずの人気者だ。上空ではイワツバメが舞っていた。明戸の堰ではイカルチドリが忙しそうに走り回っていた。対岸の森の上をオオタカが旋回していた。カッコウを期待していたが、まだ来ていなかった。

(中里裕一)

5月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄



●探鳥会参加者名簿を一部変更

本年 8 月に(公財)日本野鳥の会普及室から、「日本野鳥の会 探鳥会保険についてのご案内」文書が届きました。財団本部と全国の支部・連携団体が開催する探鳥会で、万一傷害事故が発生した場合にある程度の補償ができるように財団本部が掛金を支払っている保険契約に関するものです。

それによると、一部取り扱いが変更になり、探鳥会参加者名簿に従来の「氏名、住所、会員・非会員の別」に加え、「性別、年齢、電話番号」まで記入しておくことが、万一保険金請求手続きの必要が生じた場合には必要であるとされています。当会は同じ保険会社と別途探鳥会保険を契約していますのでそれらにも影響があります。

記入される時、特に年齢はためらわれる場合もあるかと思われます。これは万一手続きが始まった場合に確認すればすむことで、最初から記入しなければならぬとは考えられないので、それらの点につき現在確認作業を進めています。

ただその確認作業中に万一事故が発生して手続きが紛糾してはいけませんので、取り急ぎ年齢欄なども追加した参加者名簿を作成し、主担当者に配布しました。ご協力をお願いします。

●探鳥会スタッフ通信

「探鳥会の考え方や様々な運営方法について、全国連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信」として、財団本部普及室が、『探鳥会スタッフ通信』を発行しています。2013 年 8 月第 5 号には、7 月の大麻生探鳥会も紹介されました。

探鳥会リーダーであれば、その電子メール版を無料購読できます。①支部名 ②担当している探鳥会名 ③氏名 ④住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレスを記入し、tanchoo-staff@wbsj.org にお申込みください。

会員数は

9 月 2 日現在 1,862 人。

活動と予定

●8月の活動

8月10日(土)『しらこぼと』9月号校正(海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

8月18日(日) 役員会(司会：山部直喜、各部の報告・探鳥会参加者名簿の変更・その他)。

8月19日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』9月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●10月の予定

10月5日(土) 編集部・普及部・研究部会。

10月12日(土) 11月号校正(午後4時から)。

10月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

10月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

8月31日に北本自然観察公園主催の「夜の鳴く虫観察会」に参加した。全部で16種類の声を確認し、姿も10種類ほど見られた。何と言っても圧巻は、長年の憧れだったクツワムシ!! おまけにホテルやシュレーゲルアオガエルまで出てきた。夜の公園は、昼間以上に賑やかで、生命にあふれていた。次の日の朝早く、リーダー研修会の始まる前に同じ場所に行ってみたが、本当に同じ場所かと思うほど別の世界。夜の鳴く虫の世界にも踏み込んでしまい、ますます深みにはまりそう。(藤)

しらこぼと 2013 年 10 月号(第 354 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamazukuzoku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社